

T-Scope

東京都市大学 付属中学校・高等学校
TOKYO CITY UNIVERSITY JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL

編集:生徒会新聞委員会
2021.11.15発行

vol.8



僕たち
『柏苑祭運営委員会』

PICK UP 03 柏苑祭運営委員会

今年の柏苑祭の開催形態が確定したのは9月中旬でした。そこから柏苑祭をどのように良くしていくか、イベントの形態はどうか、内装や外装はどうかなど考えなければいけないことがたくさんあり、例年以上に忙しかったと思います。それでも、高2のブロック長が中心となり後輩たちをまとめて動いてくれたことで、どのブロックもスムーズに進みました。



準備期間は雨の影響により、できることが限られてものすごく大変でしたが、ブロックの垣根を越えて協力したことで最善の準備を行えました。その準備のおかげもあって当日はものすごくいいものとなり、運営全体で終了後「やってよかった」と思える柏苑祭となりました！ちなみに、僕は中庭から見える大きいロゴがものすごく好きでした！

EVENTS INFORMATION

 ※詳細は学校ホームページで発表いたします

入試説明会 & 帰国生説明会 10:00 ▶ 12:30

11/21 日 ※後日、録画内容を学校ホームページにて公開いたします

ミニ説明会 & 帰国生説明会 要予約 10:00 ▶ 11:30

12/1 水 1/15 土 ※全学年対象

※各種イベントは、状況により変更となることがあります。
最新情報は学校ホームページ (<https://www.tcu-jsh.ed.jp>) をご確認ください。

学校ホームページ
こちらから



小田急線 成城学園前駅より徒歩10分
東急田園都市線 二子玉川駅よりバス20分
東京都世田谷区成城1丁目13番1号
TEL 03-3415-0104 FAX 03-3749-0265
お問い合わせはこちら info@tcu-jsh.ed.jp

東京都市大学
付属中学校・高等学校



Make A Difference

#Time to be creative

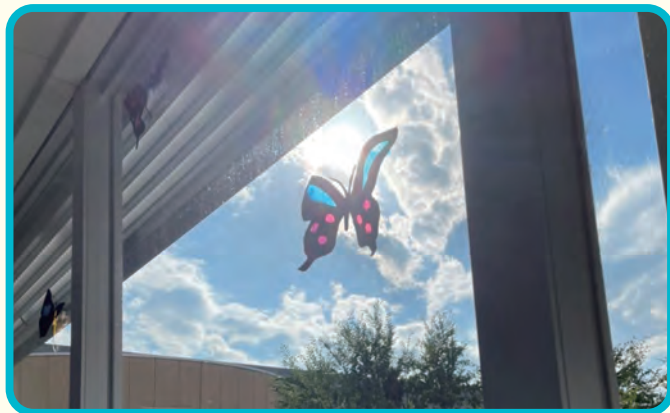
柏苑祭 2021.10.3

T-Scope (ティースコープ) とは

生徒会新聞委員会が毎月1つのテーマにフォーカスし、ここでしか紹介できないトシコー生のリアルを発信する情報誌です。

僕の柏苑祭 ダイアリー

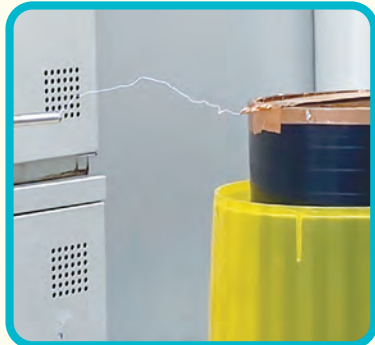
今年も新型コロナウイルスの影響を受けた柏苑祭。それでも僕たちは最大限に楽しんで、忘れられない1日になりました。



#蝶に願いを
#また来年に期待して

中3 山本 陸緑

今年の柏苑祭も、コロナウイルスの影響で規模を縮小しての開催となりました。この写真の蝶は校舎内の窓にあったのですが、来年こそはコロナから解放され本来の形での柏苑祭を行いたいという願いが込められているのかもしれないね。



#迫力ある電気
#テスラコイルの10万ボルト

高2 長手 海航

エレクトロニクス研究部(通称エレ研)は大幅に活動が減ってしまった中でも、様々な展示を行っていました。テスラコイルによる高効率の電気の移動は迫力があり、その電圧はなんと10万ボルトにのぼるとのこと！エレ研は筆者も所属していた部活なので、嬉しい限りです。



#いつもと違う状態でも
#今年には今年だけのモノを

高1 山本 青空

秋になり、形は今までと違うけれど、柏苑祭が開催されました。中でも目にとまったのは、校舎にある「Make A Difference」の文字です。いつもとやり方が異なるからこそ、今回しかできないものを作るという強い意気込みを感じました。



#短い時間の集大成
#僕らの2年間人生ゲーム

中2 笠原 優吾

今年は展示に取り組む時間が少なかったのですが、学年のみんなや学年委員、先生方の協力もあり、なんとか学年展示を完成させることができました！

来年また会おうマロ!

第1回柏文学賞作品の

ここがすごい!

全作品は製本後図書館で読めるようになります!

2021年夏、第1回柏文学賞の作品募集が行われました。中でも小説部門は、僕たち生徒の予想をはるかに超えた力作が集結！新聞委員一同、ひと足お先に読ませていただきました！



サカナになれなかった君たちへ。 | 作者 瀧川奏大

自分に正直になれない...

そんな思春期に感じる複雑な心の動きが、巧みに描かれています。一匹の美しいサカナになった“僕”の短い物語。数ページながらも読む手が止まらない、とても惹きつけられる作品です！

中3 長岡 太一

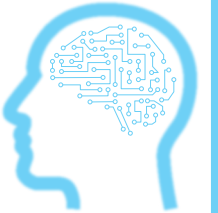


大賞受賞：瀧川くんのコメント

この小説には、青春への憧れと妬みをぶつけました。記念すべき第1回で賞をいただけて光栄です！どの応募作品も実に面白かったので、第2回の開催にも期待しています。次もぜひ応募させてください。

ロボットの国 | 作者 悠世屋梨

いつか訪れる？
人工知能が支配する世界



内戦から復興したロボットの国を取材するジャーナリストが見たものは――。現実でも話題になっている人工知能の世界について、住んでいる人の感情にも考えさせられます。

高2 小澤 颯太

日記帳 | 作者 空野歩

日記でつぶられていく、ひとつのカップルの物語



「日記を書くとは何か驚くほど冷静になれる。彼女に頼まれたことだから落ち着ける。」急に告げられる彼女の死。墜落していく人生。彼女からの最後のお願いとは……。

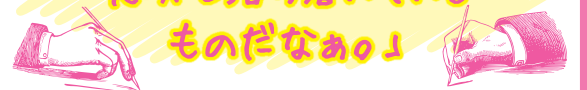
中3 青山 蒼太

学生なのに、こんな大人のカップルの姿を書ける想像力がすごい！ラストは感動が止まりません！

高2 竹村 俊希

無題 | 作者 白露風秋

「人間、切羽詰まっている時ほど
意外と落ち着いている
ものだなあ。」



というフレーズにジーンと共感。文芸部の原稿の提出日が迫る中、主人公が原稿用紙を探しても見つからなかった時のセリフです。ストーリーはとても驚きのある展開！ネタバレしたくないのであえて何も言いません！

中2 岩崎 賢人

夏の終わり | 作者 こやマッシュ

花火大会から始まる、
レモン味の短い夏

主人公と付き合い始めたばかりの彼女との短い夏の思い出に、私は感動して、ひとり泣いてしまっていました。さっとうい夫婦になれる2人でした。

中2 呉 智元

無人駅 | 作者 川嶋真喜人

無人駅は、
無人ではなかった。



文学仲間だった詩乃とのやりとりが鮮明に描かれており、気持ちの変化が読み取れ、臨場感が溢れていました。舞台は実在する駅や路線なので、「実際に行ってみよう」という気持ちになりました。

高2 森 悠泰